

住宅メーカーのネクストワンインターナショナル(千葉市、遠藤一平社長)はベトナムで戸建て住宅の販売に乗り出す。年内にモデルハウスを建て、今後3年間で30戸程度を販売する計画だ。経済成長が続くベトナムは今後、比較的高品質の住宅を求める中間層が増える見通し。現地の住宅需要を取り込むことで、収益拡大につなげる。

ベトナムで住宅販売

ネクストワン

住宅販売に先立ち、宅地造成を手掛けた(タイクエン省)



年内にモデルハウス 戸建て、3年で30戸計画



0平方メートル。風呂とトイレを別にし、日本製のシンクとキッチンを導入する。施工は現地の工務店に委託する。

同社はこのほど、モデルハウスの建設地を含む10畝(約200区画分)の土地の造成に着手。造成地周辺には小学校や病院など公共施設の建設も予定しており、日本の高品質の住宅を求める中間層が暮らす新興住宅街になる見通しだ。

地域とアジア

日本円で700万円前後を想定する。モデルハウスにはベトナム人の営業担当者が常駐する。

同社は2013年にベトナムに現地法人を設立。住宅販売に先立ち、宅地造成を手掛けてきた。北部のタイクエン省では6・7畝の土地の造成をすでに終えた。

住宅はラオカイ省やタイクエン省の造成地に建設する。当面は現地の施工会社に建設を委託するが、18年をメドに設備工事などを担う千葉県内の企業と連携して施工まで行う方針だ。

同社は千葉県内を中心に住宅建設やリフォームなどを展開している。16年3月期の売上高は約40億円だった。国内の住宅市場の縮小を見据え、今後は海外での住宅販売に軸足を移す。20年までにベトナム現法の売上高を10億円規模に伸ばし、事業の柱に育成する。